

# 弘法大師正御影供

## 報恩感謝の大法会

### 4月30日(火) 午前10時より (旧 3月21日)



# 轉法輪

願わくは共に法を  
弘めて生を利し  
同じく覚合に  
遊ばんことを  
弘法大師

平成二十五年三月二十八日発行  
発行所 犬飼山 轉法輪寺  
〒六三七一〇〇七二  
奈良県五條市犬飼町一二四  
電話〇七四七二二一四四〇三  
FAX〇七四七一五一四七一七  
編集発行人 桑山 慈 紹  
印刷所 森本印刷工業所  
和・伊都郡かつらぎ町妙寺

あたたかな春が巡ってまいりました。

お大師さまの空のごとく海のような大きな広い心に抱かれる幸せ。ご入定の聖日四月三十日(火)にはご恩に報いる心で、ぜひお参り下さい。

南無大師遍照金剛 合掌

法 要 午前十時より

内吉野結衆寺院総出仕

法 話 午後一時より

岡山市東漸寺

橋本 高諄 僧正

チャリティーバザー

午前九時より教堂二階にて

犬飼山轉法輪寺

名譽住職 桑山 聖規

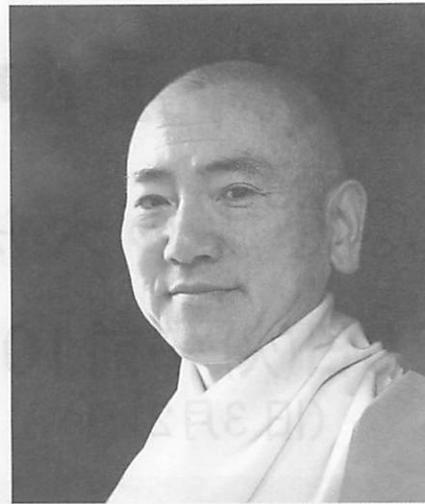
住職 桑山 慈紹

後住 桑山 聖淳

〈お大師さまのお言葉〉世界中の人が手をたずさえて教えを広め、広く人々を導き、共に理想の浄土を作りたいものである。

## 厄除開運星祭護摩供を

## 無魔結願して



住職 桑山 慈紹

平成二十五年年度厄除開運星祭護摩供は、去る平成二十四年十月九日開白し、平成二十五年二月三日節分会を以て無魔結願いたしました。その間、不動尊息災護摩供七十一座、厄除開運星供九十五座、明神法一〇八座を厳修し、檀信徒各家皆々様の厄除開運、身体健全、息災延命、善願成就を至心に御祈念申しあげました。

この厄除開運星祭に際しまして、総代様、御世話人様始め、沢山の檀信徒の方々のご支援ご協力を頂きました。この紙面を借りて、ありがたく厚くお礼申しあげます。

さて次に厄除開運の方法を簡単に説明致します。

あなたがより幸せになるために

(イ) 厄年の人はさらに親先祖の供養を充分しましょう。

仏壇には毎日、墓には近ければ月三度、お仏壇にはお茶、ご飯、線香、ローソク、お花等を供え、できれば朝夕お経、ご真言をくり返し拜んでみましょう。お仏壇、それは私達のご縁とご恩の最も深い方々であり、私達の前世（生まれる前）の姿とも申せましょう。いろいろなお方様が私達のご先祖様の中におられます。どの仏様も掛け替えないお方です。一人でも欠けていたら私達は今存在しないと考えるても良いでしょう。取り替えのできない仏様、それがご先祖であります。だから

ら大切に心して拜まねばならないのです。

(ロ) 厄年の人は神棚のお社を新調したり、日々礼拝を實行しましょう。

日本人の信仰形態は、神仏共に大切に拜む二本柱の信仰です。弘法大師も神仏共に大切にされ、此度高野山が世界遺産に認められた理由もそこにあります。

神様にはお給仕、塩、水、米等のお供（食事）が大切です。神やローソク、祝詞や読経も大切です。月の一日と十五日にのみお給仕し礼拝される方もありますが、毎日の礼拝をおすゝめ致します。神様も仏様も、拜むことにより光が増し輝き、拜まざれば光が消えてゆきます。やがて不足の神、仏となり不祥事が出ることもあります。不祥事が起こることを恐れるから拜むのではなく、より幸せで開運と厄除につながることに、それが毎日のお給仕であり礼拝であります。私達の間世界には、毎日種々様々な出来事があり、心身の悩み苦しみもあります。その様な時こ

そ、神仏に向かつて心をこめてお祈り下さい。心に安心が広がり不安、苦惱が少なくなり、新たな気持ちで力強く開運の道を進むことができるでしょう。

(八) 写経は厄除開運になります。

お経を写すことを写経といえます。

般若心経等、毛筆又は筆ペンでお仏前にてローソク線香を立て、心静かに淨写致します。尤も手術成功祈願のために病院での写経も可能です。写経用紙と筆ペン、お盆(写経用紙を上に乗せる下敷)周りの音が気になる場合、耳栓を用意して下さい。一時間に一卷位の量で写経ができます。手術後の経過もよく多くの方々には喜ばれています。どこでも写経はでき開運につながります。

(二) 霊場まわりは厄除開運になる。

四国八十八ヶ所霊場巡拝や西国三十ヶ所観音霊場巡拝等各地に沢山の霊場ができました。いずれも由緒ある霊験あらたかな札所であります。写経を納経したり、読経し乍ら先祖供養や家内安全、身体健康を祈るすがたは、大

師の道を巡る尊き姿です。この姿に厄除開運があります。

(ホ) 施しは厄除開運になる。

他が為にいろいろな形で施しをすることは厄除となります。力のある人は力で、他の人の幸せのため、何か実行してみましょう。

次に誰にでもできる施しを紹介しましょう。

無財の七施(雑宝蔵経より)

- 一、眼 施 やさしいまなざし
- 二、和顔悦色施 ほほえみたたえ
- 三、言辞施 あつたかことばで
- 四、身 施 力をかして
- 五、心 施 慈悲の心で
- 六、床座施 席ゆずり
- 七、房舎施 住いを人に解放しましょう

私達には大きなことはできにくいかも知れませんが、でもチョットしたことで、これを少しずつでも行なつてゆけば、それがやがて大きな道へとつながると信じます。

ありがとうございました。

## 笑顔に励まされ

福山市 中林佳子

いつもお守りを送っていただき、ありがとうございます。

先日、撮ってもらった写真を見て、びっくりしてしまいました。そこには、



今までになく笑顔の私が写っていたからです。

笑顔は周りを明るくするだけでなく、自分も元気にしてくれるのですね！

元気よくひいばあちゃんと呼びかける

頼季四才春から園児

百才を迎えし義母が電話にて

いたわりくれぬ風邪をひくなど

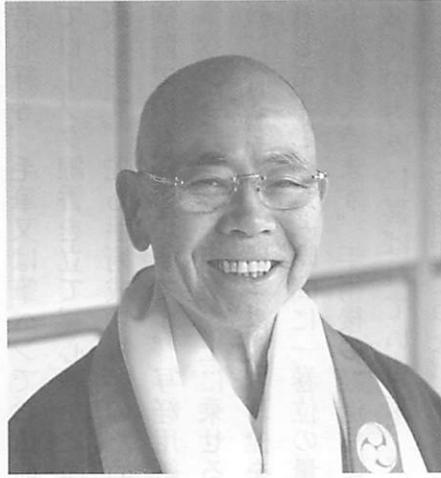
生かされて生きてますとの寒見舞

同じ思いの我も被爆者

# 生かせいのうち

## 【第三十七話】

名誉住職 桑山聖規



「草木にも仏性があり、  
心がある」

―寺のイチヨウの話―

今より五十年ほど前のことです。拙寺に樹齢三〜四十年の大きなイチヨウ

ウの木が二本ありました。しかし一つも実を付けないのです。そこで私は木の下に行き「実のならぬ木はいらないから、来年もならないなら根元から切ってしまうぞ」と言ってみただけです。木も驚いたのか翌年から実を付けだして、信者の方にお分けできるほどになりました。「たくさんの実をありがとう」とお礼を言うと、またいつそう多くの実を付けるようにもなったのです。

―杉の古木―

昭和三十年ごろのことです。寺の門前に国道が通るといふ話が出てきました。便利にはなるでしょうが、その工事に協力するためには参道の一部を譲り、生えている杉の古木を切り倒さなくてはなりません。その杉たちは数百年も前からそこに立っているようです、私はすぐに調印することが出来ませんでした。それから

何度も工事についての話し合いが持たれたのですが、そのたびに私は体調を崩し寝込みました。犬飼町の役員様は何度も寺に足を運ばれて合意を勧め、一方では杉が泣いている夢を見るなどと頭が痛い状況でした。ついに私は意を決して合意を進め、杉に毎朝読経し供養することでお詫びしました。

杉を切る日になり、作業員が工事を始めようとしますが、切ろうとすると強風が吹いて手をつけられませんが、工事は延期になり、二日後に再び取り掛かるも同じように風が吹いて切ることが出来ませんでした。三度目、「今度こそ必ず」と宣言して作業を始められました。ついに杉は切り倒されましたが、その大きな幹が鉄道の線路の上に倒れて汽車の運行が止まる騒動になってしまいました。汽車の運転手は遅れを取り戻すために石炭をかき出しながら走らせて、

その火が隣地の山に移り山火事になつてしまいました。この杉にまつわる話は五十年前も前の事ですが、心に残つて忘れられません。

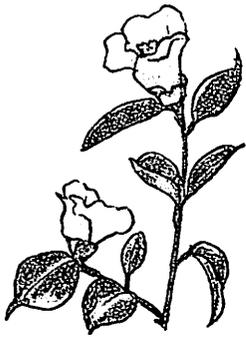
### — 草花 —

私は時間が許す限り仏様に花を供えるようにしていますが、そのたびに師の教えを思い出します。私の師僧である山中教聖阿闍梨がご本尊に供える花を切りながら語られました。「聖規よ、乃木大将の奥さんは花を切るときには合掌して『仏さまに供えるために切るよ、許してね』と念仏を唱えながら切られたと聞いています。一本の草木でも命があつて、花を咲かせるために不断の努力をしているのだ。切られたら本当は泣いているだろう」

仏道では、怒らぬこと・忍耐の心を教えるために花を供えます。花は仏さまの方には向けず、私たちに向

けて教えを説いているのです。根元から切られて根もない茎より一生懸命に水を吸い上げて花を咲かせ、切つた人にも微笑みかけて目を樂しませ、心を清めてくれる。花の心と教えは、悲しみや苦しみを乗り越えて人に喜びを与えるものなのです。

生きとし生きるもの、全てが仏の子であり天地の恵みによつて生かされています。すべてのものに感謝をして、幸福を祈ることが弘法大師の「生かせいのち」の教えです。来る四月三十日は弘法大師ご入定の旧暦三月二十一日にあたります。皆さま誘い合わせてのご参詣をお待ちしております。



## 四国八十八カ所

### 歩き遍路の

### ちよつといい話

松山市

山本 益男

歩いているときは

いろんな事に出会うのよ・・・

その9

これまた、「歩き遍路」での道中は、よく早歩き、長歩きの人に会います。その人にとつては、日数も費用も限られていることもあるのでしょうか、本当にシャカリキ、それこそがむしろに歩いています。お昼だつて、座らず、コンビニのおにぎりを歩きながら食べているような人です。そのような方は一日で四十キロ以上歩いています。(私は、気分派ですがそれでも一日三十〜三十二キロ程度のペースです)。そのような方ですからお寺に滞在している時間も超短いです。私と違って、納経が終わると一目散にまた歩き始めます。

そのような「早歩き」の方々に七十番位を過ぎてお会いすると、皆さんほと

んど同じことを言います。「もう少しゆつくり歩いて、お寺もゆつくりながめたかった」と。

結局、このような「早歩きの人」は、道中、遍路道からの四国の自然をながめたり、歩き遍路道の土(大地)を踏みしめる、お寺の由来やお寺の良さを味わい、また様々な人々に会い、楽しい会話をするといった、「歩き遍路」の楽しさを放棄してしまっているのではないのでしょうか。ゲームのような、またはスタンプリーのような感覚でしょうか、四国遍路をとらえていないということは大変もつたないことです。このような人に限っておおよそ目的は、「歩き遍路」＝「健康のため」、もしくは「最短何日で回れるか」という至つて短絡的な理由でわざわざ高額なお金をかけて歩いていらつしやいます(と思えます)。

「歩き遍路」では、体が疲れたと言えば土手や東屋、休憩所で休憩し、のどが渇いたと体が欲すれば水を飲み、おなかですいたと思えば何か食するものはないかと焦り、決して車で通り過ぎる人には感じる事ができない、そして味わえない感覚(煩惱?)があります。さらに「歩き遍路」の道中は、人しか通れ

ない「歩き遍路道」というのも随所にあります。そこには、どんな山奥に入つても必ずといって良いほど家(生活)があります。サラリーマンである私には、こんな所でどうして生活できるのか、病気になるつたらどうするのかと思うような所です(ひよつとしてご先祖さまは、平家一門の落ち武者?)。そしてその自宅前やその周辺には猫の額ほどの小さい畑や田んぼがあり、七十、八十才の御老人が曜日に関係なく、ゆつくりと、そしてたんたんとと農作業をしています。また海辺でもご高齢の方が海草を干したり、小さな漁船に乗つてたりします。一日、一年、十年とゆつくりとお仕事しています。けつしてシャカリキではありません。まさに、「歩き遍路」ではこのようなスローライフを自分の徒歩というスピードで実写版の映画のように実感できます。「人間、生涯、仕事だな」と分かります。そして、沢山の動物の中でも人間だけは自らの意志で仕事をする動物だと確信するのです。まだまだ若い(と感じている)ですから、「一人で自分の肌で感じたい(共有なんてもつたない)」、「一人でじっくり考えながら、自分の歩くペースでいろんなこと

を考えたい(煩惱だらけ!)」そのため夫婦それぞれ別々に歩いてるわけです。(正直に言えば、私自身が「まだまだ嫁の歩く速度を待てるだけの寛容さがないとも言えます」。もう少し年齢を重ね、もつと相手を思いやれる心の余裕ができれば夫婦一緒の遍路は可能になると思いますが、はつきり忍耐が必要でしょう。

先日、春の轉法輪寺お四国巡拝団にほんのちよつとだけ参加させて頂きました。信者さんには①「なぜ歩くのか」②「なぜご夫婦では一緒に巡らないの?」という質問を頂きましたが①②の答えは以上のような曖昧な解答ではありませんが、何となくわかつていただけでしたでしょうか?

「歩き遍路」は、日常での車の三十分を徒歩で一日かけて体験出来る非日常的な時間なのです。ぜひ二、三か寺でも半日、一日でも「歩き遍路」をしてみ、この貴重な時間の流れを一度は体験することを勧めます。自分自身これまででの人生を「歩き遍路」でスロームーション再生してみませんか?。再生速度は、歩く速度に比例します。ぜひ、お試しあれ!

## 光を求めて

西吉野町和田 光明院

住職 岩井恵照

その一

言葉の習得 言葉が無いと意思の伝達が上手くゆきませんので、言葉を引き出すのに良いかな？と子犬をもらってきて、一番言いやすそうなへポチと名前をつけました。ポチを介して家族の心がふれあい、なごやかな笑い声につれて孝憲の口から言葉が出始めたのです。言葉を引き出す良いきっかけになったポチ・ポチ子に感謝です。

言葉を覚えるために、短く解りやすい言葉・口を大きく開けてはつきり発音する・何回も繰り返す・焦らない・この四点を守って根気良く言葉かけを続けました。

高田の児童相談所の藤掛先生のお話の中で「子供の頭の中には言葉を溜めるダムがあるのです。言葉のダムの中に周りの者がいろんな言葉を注ぎ込んであげましょう。言葉がダムの高さまで溜まると、言葉は自然に溢れ出てくるものです」とのお話に感激し「私も

孝憲の言葉のダムが溢れるほど溜めてあげよう」と眼についたこと、感じたことなど色々話しかけました。

一方通行で何も返って来ないのですが、とにかくおしゃべりになって語りかけました。買い物や散歩など人の中へと連れ歩き、さまざまなことに出会った一つひとつの積み重ねが孝憲の心の中にふくらんで、やがて次から次へと言葉が溢れ出てきました。

言葉を覚え、単語が増え、おしゃべりできるようになったとは言っても、すぐに会話が出来た訳ではありません。言葉によって人と繋がりを持てることは確かですが、話しかけてもオウム返しや独り言が多く、なかなか会話にはならないのです。三十六歳になった今でもこちらが判じて言葉をそえて、何とか受け答えが出来る、と言うのが現状です。

食事のしつけ 食事は生きている限り欠かせないことです。食べさせている幼い頃はまだ良かったですが、自分で食べたくなる頃からは、手づかみで口に運ぶワ、辺りにこぼすワで大変でした。おはしも持ちたがるのですが、上手く使えなくてカンシヤクを起こして

しまいます。

持ちやすいスプーンやフォークで食べさせようとしても、皆がおはしで食べ、孝憲一人だけスプーンやフォークでは嫌がつて練習になりません。そこで家族中がおはしを使わず、スプーンとフォークで食べ、洋食のマナーの練習だと思ふことにしたのです。

「おつくりぐらいおはしで食べさせて欲しいなあ」と主人や年老いた母に言われながら、我慢して根気良く続けました。努力の甲斐あつてスプーンとフォークで食べられるようになり、今度はおはしに挑戦です。

おはしの持ち方は皆で根気良く教えました。特に私の母が年寄の根気強さで何度もやさしく言い含めるように教えてくれて、だんだん上手く使えるようになり、大変ありがたかったです。

健常なお子達は時期が来れば歩き、特別の努力をしなくても、自然に言葉を覚え、何で？どうして？を連発しながら知恵を蓄えてゆきますが、知恵遅れの障害の故に、健常なお子達の何倍も何十倍もかかってやつと身につける、と言う状態で、まさに親も努力の毎日でした。

# 心に宝をー7ー 彼岸のころ

平成二十五年 春彼岸

橋本市

宝形山 地藏寺

井上 覚善

節分を過ぎたある日の夕暮れ時、ふと呼び鈴が鳴り、玄関に出てみるとAさんという檀家さんのお孫さんでした。一体どうしたのかと思いを聞きまますと、「院家さん、病院に入院しているおばあちゃんが、数日前から意識が無くなって目が覚めないんです。どうか、おばあちゃんが目を覚ましてくれるようにご祈祷してくれませんか。」と言うではありませんか。私はそのお孫さんのおばあちゃんを思う気持ちに強く胸打たれ、思わず目頭が熱くなり、涙が溢れてきました。

昨今の世の中、つい目先の損得ばかりを追い求め、道徳は忘れられ、時に、

親が子を殺し、子が親を殺したりするようなことも報じられたりする中、「こんなにも心の優しい、思いやりのある子がいるんだなあ。」と、心がポカポカと温かくなりました。そして次の日、本堂のご本尊さまの前で、お孫さんと一緒に、おばあちゃんの意識が戻るように、たとえ一日でも一時間でも一分でも寿命が延びる様に、一生懸命お祈りさせて頂いたのであります。

それから数日して、そろそろ寝床に入ろうかという頃、一本の電話が鳴りました。「こんな時間に誰だろう。」と思いつながら受話器を取りますと、あのお孫さんでした。そして「院家さん、お陰様でおばあちゃんが目を覚ましてくれて意識が戻りました。本当にありがとうございます。」と声を弾ませて言ってくれたのです。私は嬉しくて嬉しくて、思わず、家内と手を取り合せて、「きつと、あの子のおばあちゃんを思う真心が通じたんだね。」「本当に良かったね。」と感涙にむせびました。

私たちは普段の生活では、つい眼に

見える物や形ばかりに気をとられがちになります。しかしながら、形ある物は必ず滅しますし、形ある物に執着しても決して幸せにはなれません。また反対に、目には見えないけれども誰しもが持っている「こころ」は、どんなことがあっても消えることなく、本当の宝であり、特に駆け引きのない、優しさ・思いやり・感謝の心は、正しく彼岸のこころであると思えます。

ですから、「彼岸」とは決して難しいものではなく、また遠くにあるのではなく、本当は自分のこころの中にある、真心からの優しさ・思いやり、そして感謝の心があれば、「いつでも」【どんなときにも】「たとえ亡くなっても」、必ずや彼岸に至るのではないかと思えます。

そして、私たちの「こころ」を通して、親・先祖、そして地・水・火・風・空すべてが私たちを覗いています。本当は誰しもが持っている、良い思いを、感謝の心を捧げたい、この春のお彼岸であります。

合掌

# 修行大師に救われて

内田 悠紀子

平成十九年一月、自動車から降りこねて、ひざを骨折、手術をして退院したものの、その年のお盆にはまたひざを複雑骨折してしまいました。「お盆にはご先祖さまが帰ってこられるのに、本当にすまないことだ」と悲しい気持ちですごしていました。

八月十四日に手術をして、それから二、三日たった夜のことです。

夢の中に白衣姿の方が大勢あらわれ、中に足元に脚絆をつけたおぼうさまもおられました。ちょうどお寺の修行大師さまそっくりのお姿です。上方はつきりとはわかりませんでした。が、衣のすそと脚絆をつけた足もとで「親住職様が来て下さったのだ」と感じました。

そして、その方が、私を暗いところ

から明るい所へつれ出して下さったのです。その時、はっと気がつき、夢からさめました。

朝になって、隣のベッドの奥さんから、「何、泣いとつたん？」ときかれましたが、きつとうれしくて泣いていたのだと思います。

足の手術をする四、五年前から、四国まわりの十夜ヶ橋のおふとんを巡拝される方にお接待させてもらっていました。

自分はお四国におまいりできないけれど、心をこめてつくったおふとんが、寒風吹きすさぶ十夜ヶ橋の下ですまれているお大師さまにかけてもらっている・・・それだけで、何とも言えないうれしさがこみ上げてきます。

私の足は二回も骨折したので、将来、車イス生活になるだろうと言われていましたが、今は杖も時々忘れるほど、しっかり歩けるようになりました。

現在八十四才になりますが、主人も

九十才で元気でいてくれるし、孫やひ孫にもめぐまれて、みんなにやさしくしてもらっています。

「お大師さんに手を合わせていたら、絶対いい方向へいくよ」と亡き岡本（勝子）さんにいつもはげましてもらっていました。本当にそうだなあ」と感謝する毎日です。

雨の降る日も風の夜も

行者の身をば守り給う

げに有難や千代へても

利益(りやく)あらたの生き仏



今日も楽しんで作っています!

# 来る4月30日(火)

正御影供

◆もちまき 2時半ごろ

◆法要 午前10時より  
内吉野寺院総出仕



法話 午後一時より

「貴方にとって一番大切なもの」

岡山県東漸寺

橋本高諄 僧正

橋本高諄 僧正



〈プロフィール〉

昭和二十九年生まれ 岡山市足守

真言宗御室派東漸寺住職

高野山真言宗本山布教師

御室派備中宗務支所長

高野山金剛流研究室委員

橋本僧正はハガキ伝道や御詠歌布教などを通じて熱心にお大師様のみ教えを広めておられます。

当日はすばらしい御詠歌も聴かせていただけることと思います。

—ご奉仕のお願い—

正御影供の諸準備のため、お手伝いをよろしくお願い申し上げます。

四月二十九日(月) 餅つき・旗立 掃除など

四月三十日(火) 当日(八時から)

お世話人様は、ハツピ・袈裟腕念珠をご着衣下さい。

五月一日(水) 後片付け

〈お知らせ〉

四月二十一日 不動尊会となります。

四月二十九日～五月一日まで

個人祈祷・水子供養はお休みです。



震災救援チャリティバザーにご協力お願い致します。

ご家庭で不用の品(新品)があれば4月21日までに当寺までお届け下さい。